

教科に関する調査の設問別の分析結果

「基礎・基本」定着状況調査 中学校英語 6 1

6 次の1～4の会話文の()にあてはまるもっとも適切な英語を、それぞれ下のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- 1 A: What () Akiko and Ken do on Sunday?
 B: They play basketball.
 (注) Akiko アキコ(人名) Ken ケン(人名)

ア is イ are ウ do エ does

【出題の趣旨】

適切な語を用いた会話文の組立てができる。

【学習指導要領の内容・領域】

読むこと(ウ)大切な部分などを正確に読み取ること

内容 (3)言語材料 エ 文法事項

(ア)文 a 単文,重文及び複文

b 肯定及び否定の平叙文

d 疑問文のうち,動詞で始まるもの,助動詞(can, do, may など)で始まるもの,or を含むもの及び疑問詞(how, what, when, where, which, who, whose, why)で始まるもの

(イ)文構造 c [主語+動詞+目的語]のうち,

(a)主語+動詞+名詞

	正答率
本校	42.9%
広島県	21.3%

解答類型		本校の人数 (人)
1	ウ do	3
2	ア is	1
3	イ are	3

この問題を解くために必要な力

文法事項(ア)文(イ)文構造の知識

文の意味を考えて,適切な語を用いて会話文の組立てをする力

誤答分析

解答類型3について

- ・be 動詞と一般動詞の使い分けが定着していない。
- ・語順,特に動詞の位置を理解していない。
- ・do の一般動詞としての意味・用法が理解できていない。
- ・1文に1つの動詞という原則が知識として定着していない。

解答類型2について

- ・どこまでが主語かをとらえられない。単純にIならば am, Akiko(人名)で is とする。複数ならば are/do という意識が薄い。

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント

「基礎・基本」定着状況調査 中学校英語 6 1

【単元名】 Unit 6 20th Century Greats

調査結果からみる課題

【課題となる力】

- 「動詞」が理解できていない。
- ・ be 動詞と一般動詞の使い分け
- ・ 語順,特に動詞の位置
- ・ do の一般動詞としての意味・用法

主語の把握

- ・ どこまでが主語かをとらえられない。単純に I ならば am, Akiko(人名)で is とする。複数ならば are/do という意識が薄い。

【指導上の課題】

文法事項(ア)文(イ)文構造を理解させきれていなかった。

文の意味を考えて,適切な語を用いて会話文の組立てをする力の育成が不十分であった。

定着させるためのくり返し学習(=十分な練習量)が不足していた。

「会話文のつながり」や「問いと答えの関係」を考えながら,話したり書かせたりする指導が不足していた。

指導改善のポイント

基礎的・基本的な知識を活用し,英文法に従ってきちんとした文を書く力の育成をめざす

【指導の工夫】

単文の構造の理解を確認しながら,先行詞を修飾するための文構造を,並べかえ練習などで練習させる。

自分で考えた文を書かせ,文構造の定着を図る。ペアワークなどで「問いと答えの関係」を考えさせながら,会話練習をさせる。

関係代名詞を使って一人ひとりにクイズを出させ,文構造の定着をねらう。

例) Do you know the animal () runs fast? 早く走る動物を知っていますか。
Do you know () () () () the highest in the world?

広島で一番高い山を知っていますか。
_____ in Japan?

日本で人気のある映画を知っていますか。

徐々に書く語を増やし,文構造を整理して書けるように指導する。

生徒一人ひとりに何枚かの単語カードを持たせ,最初は指示通りに文を作らせ,次に自分で考えた文を作らせる。

例)

this	is	the	dog	has	long hair	that
------	----	-----	-----	-----	-----------	------

I	know	bus	goes	to Osaka	.
---	------	-----	------	----------	---

例えば「わたしは長い毛の犬を知っている。」という意味になるように語を選択し,並べさせる。カードを増やしていき,まとめとして自分で作りたい文を作らせる。

「問いと答えの関係」を考えさせながら,クイズ形式のペアワークを行なう。

中学校第 3 学年 英語科学習指導案

単元名 : Unit 6 20th Century Greats

1 日 時	平成 21 年 12 月 1 日 (火) 13:00 ~ 13:50
2 場 所	3 年教室
3 学年・クラス	3 年生 (男子 8 名 女子 1 名)
4 単元名・教材	Unit 6 20th Century Greats

単元について

本単元での場面設定は、絵美たちのクラスの英語の授業で 20 世紀の偉人の中から一人を選び、レポートを出すという課題が出され、絵美たちのグループはレイチェル・カーソンについて調べ、まとめることになったという設定である。環境問題に関して草分け的存在であるカーソンの業績と生涯について知り、環境問題に目を向けていくのにふさわしい単元である。

言語材料としては、これまで前置詞を主にした形容詞句、不定詞、及び分詞による後置修飾を学んできたが、この単元ではそれに加えて接触節、主格の関係代名詞 who, that, which と目的格の関係代名詞 that について扱う。名詞をさらに詳しく修飾することができる方法という利点をいかした活動を仕組み、様々な表現ができるという楽しさを生徒に実感させたい。そして、主語の把握、動詞の理解など、文・文構造の理解を確かなものにしていきたい。

調査結果からみる課題

誤答分析から

- 「動詞」が理解できていない。
- ・ be 動詞と一般動詞の使い分けが定着していない。
- ・ 語順、特に動詞の位置を理解していない。
- ・ do の一般動詞としての意味・用法が理解できていない。

主語の把握

- ・ どこまでが主語かを捉えられない。単純に I ならば am, Akiko (人名) で is とする。複数ならば are/do という意識が薄い。

指導上の課題

文法事項 (ア) 文 (イ) 文構造を理解させきれていなかった。

文の意味を考えて、適切な語を用いて会話文の組立てをする力の育成が不十分であった。

定着させるためのくり返し学習 (= 十分な練習量) が不足していた。

「会話文のつながり」や「問いと答えの関係」を考えながら、話させたり書かせたりする指導が不足していた。

指導改善のポイント

指導内容・指導方法について

単文の構造の理解を確認しながら、先行詞を修飾するための文構造を、並べかえ練習などでくり返し練習させていく。

ワークシート等を使って自分で文をたくさん作らせ、文構造の定着を図る。

「問いと答えの関係」を考えさせながら、クイズ形式のペアワークを行う。

単元の目標

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
聞く			[正確な聞き取り] 聞いた内容について正しく理解できる。	
話す	[言語活動への取組み] 学んだ表現を積極的に使っている。	[正確な発話] 話そうとすることを聞き手に正確に伝えることができる。		
読む		[正確な音読] 正しい強勢，イントネーション，区切りなどを用いて音読することができる。	[正確な読み取り] 読んだ内容について正しく理解できる。 [適切な読み取り] 書かれた内容について大切な部分を読み取ることができる。	[言語についての知識] 文構造についての知識をもつ。 [文化についての理解] 環境問題について自分なりの考えをもつ。
書く		[正確な筆記] 文法に従って正しく書くことができる。		

指導と評価の計画

(全 11 時間)

次	学習内容(時数)	評 価				評 価 規 準	評価方法
		関	表	理	知		
一	・接触節を用いた文の形，意味，用法を理解する。					・文構造についての知識をもっている。	ワークシート
	・接触節を使った文を作る。(1)					・文法に従って正しく書くことができる。	ワークシート
	・本文の内容を理解する。 ・音読練習をする。(1)					・読んだ内容について正しく理解することができる。 ・正しい強勢，イントネーション，区切りなどを用いて音読することができる。	授業ノート 行動観察
二	・主格の関係代名詞 who 用いた文の形，意味，用法を理解する。					・文構造についての知識をもっている。	ワークシート
	・本文の内容を理解する。(1)					・読んだ内容について正しく理解することができる。	授業ノート
	・音読練習をする。 ・写真の人物を見て説明する。(1)					・正しい強勢，イントネーション，区切りなどを用いて音読ができる。 ・学んだ表現を積極的に使っている。	ペアで発表 発表

三	<ul style="list-style-type: none"> 主格の関係代名詞 that, which を用いた文の形, 意味, 用法を理解する。 主格の関係代名詞 that, which を用いた文を作る。(本時) 			<ul style="list-style-type: none"> 文構造についての知識をもっている。 文法に従って正しく書くことができる。 	ワークシート ノート
	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を理解する。 音読練習をする。(1) 			<ul style="list-style-type: none"> 書かれた内容について大切な部分を読み取ることができる。 正しい強勢, イントネーション, 区切りなどを用いて音読ができる。 	授業ノート 行動観察
四	<ul style="list-style-type: none"> 目的格の関係代名詞 that を用いた文の形, 意味, 用法を理解する。 目的格の関係代名詞 that を用いた文を作る。(1) 			<ul style="list-style-type: none"> 文構造についての知識をもっている。 文法に従って正しく書くことができる。 	ワークシート ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を理解する。 音読練習をする。(1) 			<ul style="list-style-type: none"> 読んだ内容について大切な部分を読み取ることができる。 正しい強勢, イントネーション, 区切りなどを用いて音読ができる。 	授業ノート 行動観察
五	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞のまとめをする。 スキットを作る。(1) 			<ul style="list-style-type: none"> 文構造についての知識をもっている。 自ら学んだ表現などを使っている。 	ワークシート ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> スキットを仕上げ, 発表する。(1) 			<ul style="list-style-type: none"> 話そうとすることを聞き手に正確に伝えることができる。 	評価シート
六	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の確認をする。 リスニング活動をする。(1) 			<ul style="list-style-type: none"> 環境問題について自分なりの考えをもっている。 聞いた内容について正しく理解することができる。 	ワークシート ワークシート

検 証

検証の方法

・ 調査問題の実施

語順の確認（安芸太田町英語部作成調査問題より）

ユニット 6

これは私がアメリカで撮った写真です。

(America / this / a picture / took / I / is / in).

私は英語を話す男の子を知っています。

(the boy / I / know / who / English / speaks).

これは彼女によって書かれた手紙です。

(which / a letter / is / by / her / this / written / was).

これは彼が去年書いた本です。

(a book / last year / this / that / is / wrote / he).

検証結果

- 1 88.9% 正答
- 2 66.7% 正答
- 3 77.8% 正答
- 4 77.8% 正答

分析・考察

- 1 指導の工夫 の並べかえ練習を取り入れた結果、80%以上の生徒が正しい語順で英文を書くことができた。しかしながら、「これは写真です。」という結論先行型の文構造であることを定着させきることができていなかった。
- 2 I know までは80%以上の生徒が書けていたが、関係代名詞以降の語順を正しく書くことができていなかった。指導の工夫 をもう少し発展させ、練習量を増やす必要がある。
- 3 指導の工夫 の並べかえ練習をする際に、which が主格の関係代名詞であることを十分に理解させるだけの練習量ではなかった。そして、確認し、復習させるという丁寧な指導ができていなかったため、文の中で which が主格として正しく扱われていなかった。
- 4 This is までは全員が書けていたが、that を目的格の関係代名詞ととらえていないために、that の次に主語を置くことができていなかった。指導の工夫 について、さらに工夫し、丁寧な指導が必要であったと考えられる。